

## PRESS RELEASE

報道関係者各位

# 大学×高校×社会 教育と社会課題解決を接続する、新しい「学び」の共創モデルを実現！

～「三者共創」で、地域のエネルギー課題に挑む～

3月3日（火）～5日（木）、桐蔭横浜大学（神奈川県横浜市）に、全国から7つの大学と2つの高校から生徒・学生が集結し、横浜市や青葉区、第一線級の企業22の団体に参画いただき、「持続可能なエネルギー社会」について学びを深めるセッションを実施しました。本セッションは、昨年12月に始動した「2025年度大学間越境学習プログラム」全5回の集大成となるものです。最大の特徴は、地域や学校種などを越境した生徒・学生のアイデアを、企業や自治体の方が職業人の視点で磨き上げる「縦と横の共創」です。地域や世代を越え、エネルギー社会の未来を思い描き互いに切磋琢磨する、かつてないスケールの学びの場が実現しました。

### ■参加団体

全国各地より、大学7校+高校2校+企業・自治体22団体が、桐蔭横浜大学に集結！

#### 【大学】

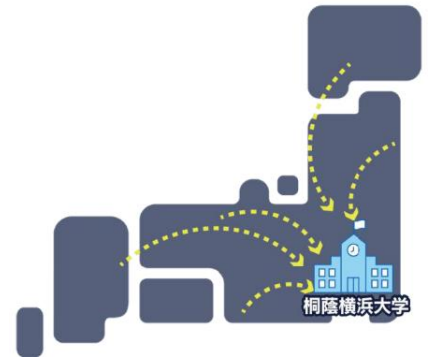
桐蔭横浜大学（主催）、日本文理大学、東京家政学院大学、石巻専修大学  
島根大学、北海道科学大学、福岡工業大学

#### 【高校】

宮崎県立飯野高校、和歌山県立新宮高校

#### 【企業】

ALSOK株式会社、ウエイズトヨタ神奈川株式会社、株式会社鈴木商館、  
株式会社ニトリホールディングス、福田産業株式会社、株式会社マイナビ、  
三菱商事エネルギー株式会社、株式会社リファインバースグループ、株式会社レンタルのニッケン、  
有限責任監査法人トーマツ、ほか



## ■「2025年度 大学間越境学習プログラム」の概要

全国各地から集う、属する地域も専門も異なる大学生、高校生が混成チームを組み、「持続可能なエネルギー社会」という正解のない問いに挑む越境・探究型学習プログラムです。全5回のセッションでは、チャットやオンラインツールを活用し全チームが参加する「越境学習」と、各チームがそれぞれの地元で実施する「探究学習」を往還することで、高インパクトの深い学びを実現しています。第4回目の開催となる2025年度のプログラムでは、新たな展開として企業や自治体に参画いただき、地域や専門を越えた「横の繋がり」に加え、世代や立場を越えた「縦の繋がり」も創出する、より重層的な学びの空間へアップデートしました。

## ■「縦の繋がり」：大学×高校×社会の共創

専門性を探究する大学生、多様な進路を夢見る高校生、実社会で様々な話題に立ち向かっている職業人による「三者共創」の場を構築しました。日常では交わることのない三者による対話を通じて、固定観念を崩し、若者の「問い」と大人の「知」を交差させることで、既存の枠組みでは実現できない革新的な学びの空間を創出しました。「縦の共創」が、学生の学びを教室の中だけに閉じない、社会のリアリティを伴った生きた探究へと広がっていきます。

## ■「横の繋がり」：地域・専門分野を越えた学び

全国各地から集う学習者が、地域や専門分野の違いを越えて混成チームを組み、探究を進める中で、学びを支える「横の繋がり」が形成されました。互いの課題意識や生活背景、学問的視点の違いが対話を生み、視点が固定化されにくい学習環境が生まれます。その結果、前提を問い直し論点を組み替える批判的思考が促され、収集・分析から仮説形成、検証、提案へと探究を押し進める力が強化されます。加えて、遠隔での協働と各地での探究を往還しながら、対話の設計・役割分担・合意形成を実践することで、成果創出につながる協働実践力が磨かれます。この「横の繋がり」は、他者との交流を通じて自らの価値観を捉え直す自己理解力や、考えを工夫してわかりやすく伝える発信力を育み、学びを次の行動へつなげる省察力の形成にもつながります。



## ■桐蔭横浜大学 学長 森 朋子 コメント

本プログラムは、高校生・大学生、そして社会人が立場を越えて学び合う共創の場として実施しました。高校生・大学生と社会人が交わることで、学びは教室の中だけでは終わらない、社会と地続きの、実践的なものになります。多様な立場との対話を通じて、学生たちは正解のない課題に向き合い、問いを立て、論点を絞り込み、根拠をもって提案を組み立てる力を伸ばしました。参画いただいた企業、自治体の皆様からは、地域や社会の課題に向き合い、対話を重ね、問いを深め、提案を磨いていく過程そのものを高く評価いただいております。この「対話型論証」に基づいた知の交錯こそが、学びのブラッシュアップを加速させ、「教育の質」を担保する核心になると考えています。



## ■桐蔭横浜大学

横浜市青葉区に位置する私立大学で、社会の持続可能な発展に貢献し新たな価値を生み出すことができる人材を育成することを目標に、学生の主体的な学びと確かな成長を実現すべく教育改革に取り組んでいる。法学部、医用工学部、スポーツ科学部、現代教養学環の3学部1学環を擁し約2,300名の学生が在学している。

同学では、GXを支える技術として注目され、ノーベル賞受賞が期待されている「ペロブスカイト太陽電池」の研究を進めており、開発者である宮坂 力特任教授が研究を主導している。

## お問合せ

### 桐蔭横浜大学

【代表者】学長 森 朋子

【所在地】神奈川県横浜市青葉区鉄町1614番地

【公式サイト】 <https://toin.ac.jp/univ/>

【本件に関するお問合せ】 TEL: 045-972-5881 Email: u-koho@toin.ac.jp